

学校だより

熱 砂

< 発行 >

令和元年 11 月 28 日

発行責任者：校長

和田 政男

News ! 熱沙祭, 音楽発表会は毎年開催へ !

この時期、学校では次年度の年間計画作成に着手します。まずは入学式や卒業式の日程、終業式と始業式の日程、大きな行事の日程・・・そして年間授業日数の確定へと。

その協議の中で、熱沙祭後の保護者アンケートや職員反省を受け、「本当に熱沙祭と音楽発表会を隔年開催で良いのか？」という議論がなされました。一旦アナウンスしたものを撤回するのは当然躊躇するのですが、戻るなら今しかない、と。協議の結果、毎年開催とすることに決定いたしました。

協議のポイントのいくつかを紹介しますと、○子どもたちの成長を図る大きな機会となっている。○一学期に学級の団結を図る行事として音楽発表会は必要である。○隔年開催とする理由は、授業時数の確保と子どもたちの負担軽減であったが、どちらも調整が可能である。○学校は子どものために第一義に考えるべきであり、これだけ教育効果の高い行事は毎年開催とすべきである。というものでした。先生方の熱意に感謝です。ただし児童・生徒の学習内容が過重にならないよう、音楽発表会は合唱のみを行い、合奏はおこないません。

というわけで、次年度は1学期に音楽発表会、2学期に熱沙祭を行います。

なお、保護者アンケートでもそれを望む声が多かったことを付け加えておきます。

「キャリア教育」と「進路指導」

日本で経済成長が停滞した頃、「ニート」や「フリーター」と呼ばれる若者の存在が社会で多く見られるようになり、文科省では小学校段階から職業意識を育てる「キャリア教育」の必要性を唱え、取り組むこととし学校に導入されました。学校では「キャリア教育」という時間があるわけではありませんが、学校の教育課程全体で「キャリア教育」を行っています。

キャリア (career) の語源は轍 (わだち=車輪が通った跡) とのことで、日本語では「経歴」などと訳されているようです。

それでは、「キャリア教育」は中学校で従来から行っていた「進路指導」とどうちがうのでしょうか？

進路指導が将棋の「詰め将棋」に似ているとすれば、キャリア教育は囲碁の「布石」に似ているといえます。囲碁の序盤に打つ石、今はどんな働きをする石なのかよく見えないけれど、終盤になると序盤に打った石が思わぬ働きをしていることに気づく。そんなものだというのです。

つまり、進路指導は、将来は何になりたいから大学はどこに行く、そのためには高校はここに行く。だから今、これを頑張る。そんな夢や目標を追求していく指導である。

キャリア教育は、今やっていることが将来どんな役に立つのか、今ははっきりとは分からないけれど、後から振り返ると、あの時のあの頑張りが今の自分を作っているのだと思える、そんな教育だということです。

例えば、挨拶。親からも先生からも、「挨拶は大事だよ。挨拶しなさい」と指導される。「そんなもの何の役に立つのよ!」と思いつつも続けているうちにそれが習慣になる。すると将来社会に出たときに、しっかりと挨拶できる人間になっていることで、思わぬ嬉しい展開がある。これもキャリア教育の成果です。

極端な話、よく分からないたとえば教科の授業を50分間我慢し、姿勢を良くして先生の話の聞いてるふりばかりもする。これだって立派なキャリア教育になっているのです。

もちろん、学校生活の中でたくさん起きる「まちがい」だって、立派なキャリア教育です。

そう考えると、毎日過ごしている学校生活の全て、家庭生活の全てがキャリア教育になっているのです。

「若いときには苦勞は買ってでもせよ」という諺は、経験のすべてが「生きる力」の育成につながっているからなのです。

「音楽発表会」や「熱沙祭」？

ものすごく大きなキャリア教育の場です。

G9の生徒が臨む、人生最初の試練ともいえるべき高校受験。これも大きなキャリア教育の場です。

本日、G9の生徒と校長室で面接練習をしました。どの生徒もとても立派でした。ほんの短い時間で、その生徒の持つ「良さ」と「前向きな意欲」がビシビシ伝わってきました。頑張れDJS生!